

吾妻山の火山活動解説資料

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制) が継続 >

吾妻山では、28 日から火山性地震が増え始め、昨日 (30 日) から多い状態となっています。その他のデータには特段の変化はみられません。

吾妻山の火山活動は、引き続きやや活発な状態となっています。

【防災上の警戒事項等】

大穴火口付近では引き続き小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺 (火口から概ね 500m の範囲) では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況 (図 1)

吾妻山では、28 日から火山性地震が増え始め、昨日 (30 日) は 47 回、本日は 11 時までに 14 回発生するなど多い状態となっています。

火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況 (図 2)

上野寺に設置している遠望カメラ及び東北地方整備局が浄土平に設置している火口カメラによる観測では、28 日以降、大穴火口 (一切経山南側山腹) の噴気の高さは 100m 以下で経過しており、特段の変化は認められません。

・地殻変動の状況 (図 3)

浄土平観測点の傾斜計¹⁾では、2014 年 7 月頃から西南西側 (火口方向側) 上がりの変動が観測されていましたが、2015 年 7 月頃から停滞、2015 年 9 月頃から西側下がり傾向となっています。

GNSS²⁾連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015 年 7 月頃から停滞しています。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014 年 12 月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が観測されていましたが、2015 年 7 月頃から停滞し、10 月頃から収縮に転じています。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ (標高)」を使用しています (承認番号 平 26 情使、第 578 号)。

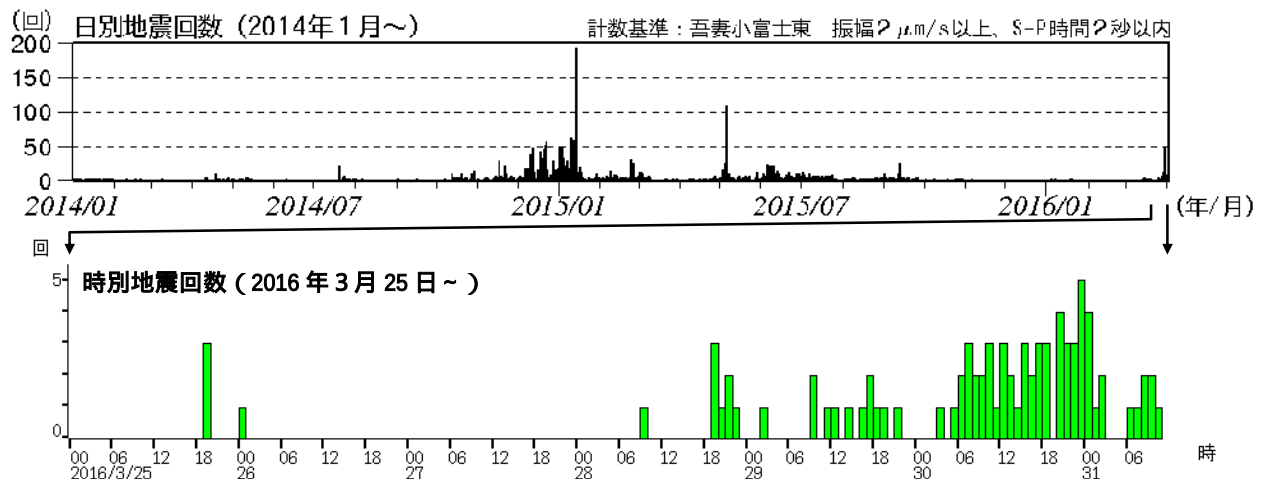


図1 吾妻山 火山性地震回数 (2014 年 1 月 ~ 2016 年 3 月 31 日 11 時)
・ 28 日から火山性地震が増え始め、昨日 (30 日) から多い状態となっています。



図2 吾妻山 大穴火口からの噴気の状況 (3月31日)

- ・ 左図: 福島市上野寺 (大穴火口から東北東約 14km) に設置している遠望カメラの映像です。
- ・ 右図: 大穴火口の東南東約 500m に設置されている浄土平火口カメラ (東北地方整備局) の映像 (09 時 00 分頃) です。
- ・ 破線赤丸で囲んだ部分が大穴火口北西側火口壁の噴気で、高さは 50m です。

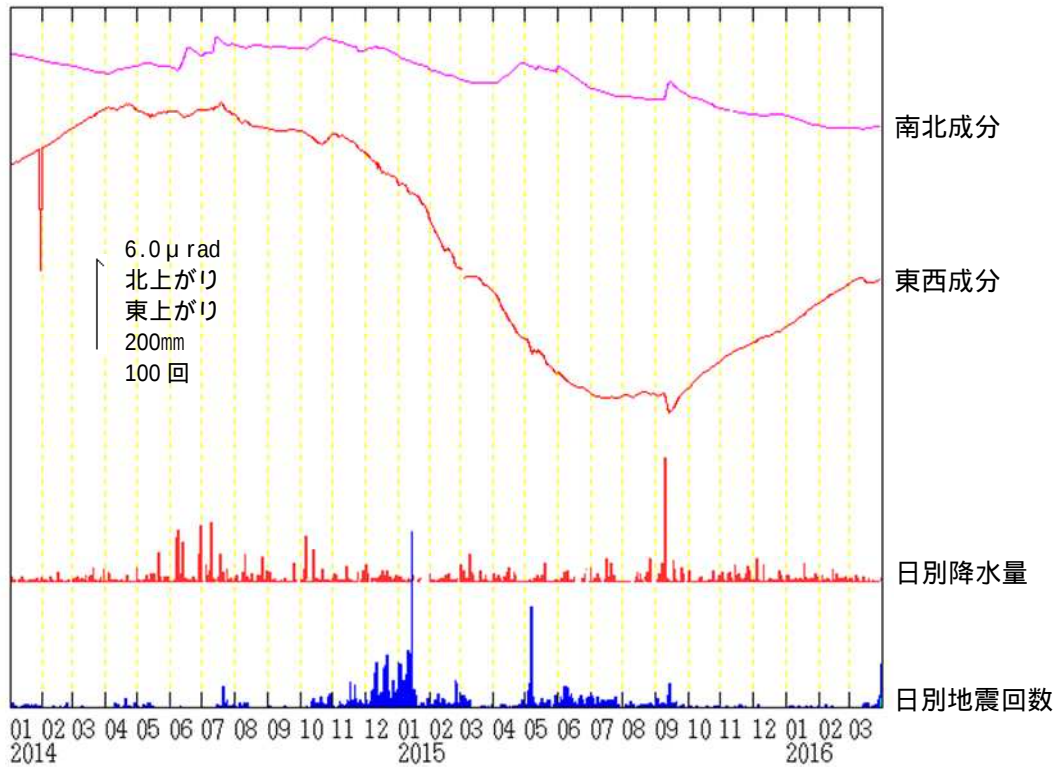


図3 吾妻山 浄土平観測点での傾斜変動

(2014年1月1日～2016年3月31日09時、時間値、潮汐補正あり)

- ・ 1 μ rad (マイクロラジアン) は、1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。
- ・ 2014 年 7 月頃からみられている西南西側（火口方向側）上がりの傾向は、2015 年 7 月頃から停滞していましたが、9 月頃から西側下がり傾向がみられています。
- ・ 日別降水量は鷲倉地域気象観測所の値です。
「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」による変動です。

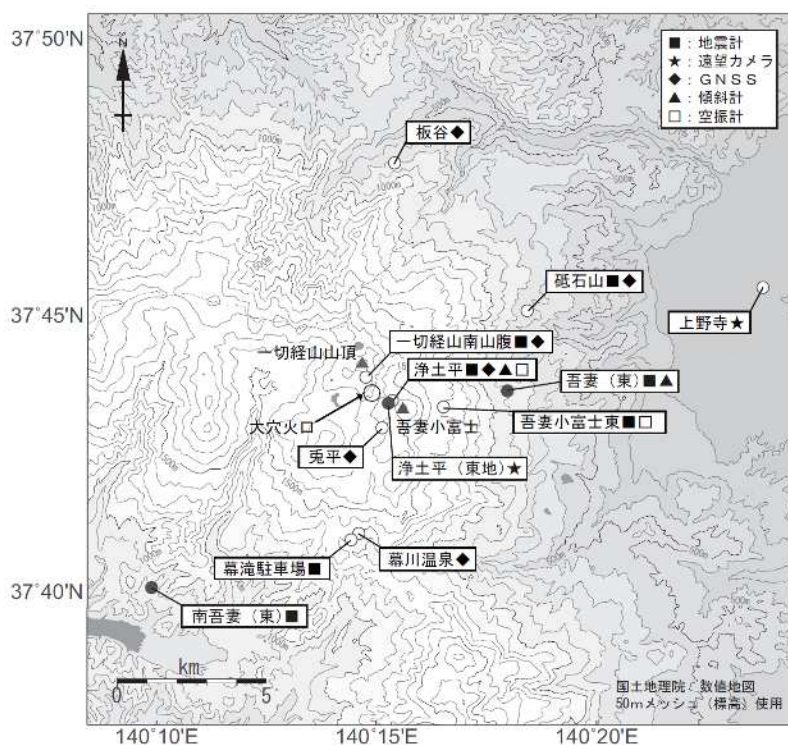


図4 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(東)：東北大学 (東地)：東北地方整備局